

平成30年度 東京都学力調査分析 小松川第二中学校〈国語〉

1. 結果の概要

カテゴリー 内容(観点)	問題番号	設問項目	都平均 (%)	本校平均 (%)
国語への関心・意欲・態度	1(4)	適切な関心・意欲・態度をもって、話すこと、聞くことについての学習に取り組もうとしている。	96.5	98.2
	7(3)	適切な関心・意欲・態度をもって、書くことについての学習に取り組もうとしている。	88.5	86.6
	国語への関心・意欲・態度 平均		92.5	92.4
話す・聞く能力	1(1)	話の内容を正確に捉えることができる。	92.4	94.5
	1(2)	話を聞き必要に応じて適切な質問をすることができる。	71.7	68.9
	1(3)	二つの意見を聞いて内容を理解するとともに、観点を明確にして比較することができる。	40.2	45.7
	話す・聞く能力 平均		68.1	69.7
書く能力	7(1)①	課題に応じて、適切に材料を集めることができる。	90.7	90.9
	7(1)②	集めた材料を基に、自分の考えをまとめることができる。	79.0	86.0
	7(2)	伝えたい事実や事柄について、自分の考えを根拠を明確にして書くことができる。	64.3	61.0
	書く能力 平均		78.0	79.3
読む能力	5(1)	ある場面での登場人物の行動の理由を読み取ることができる。	82.2	84.8
	5(2)	表現のねらいや工夫を、場面と結び付けて読み取ることができる。	50.9	53.7
	5(3)	ある場面での登場人物の様子を読み取ることができる。	71.9	72.6
	5(4)	ある場面での登場人物の気持ちを読み取ることができる。	77.2	82.9
	読む能力 平均		70.6	73.5
言語についての知識・理解・技能	2(1)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことができる。(表情が陰しくなる)	97.1	96.3
	2(2)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことができる。(お知らせを刷る)	74.8	84.1
	2(3)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことができる。(タイムを去年より縮める)	91.0	92.1
	3(1)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことができる。(説明はハブいて)	45.8	63.4
	3(2)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことができる。(フクスウの種目)	60.1	73.8
	3(3)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことができる。(おいワイ)	66.4	79.9
	4(1)	語句の係り受けについて理解し、適切に文を書くことができる。	58.0	61.0
	4(2)	熟語の意味や組み立てを理解し、文の中で正しく使うことができる。	71.1	72.0
	4(3)		66.8	63.4
	言語についての知識・理解・技能 平均		70.1	76.2
必要な情報を正確に取り出す力	6(1)	課題に即して文章を読み、課題解決のために必要な情報を正確に取り出すことができる	85.8	86.0
	必要な情報を正確に取り出す力 平均		85.8	86.0
比較・関連付けて読み取る力	6(2)	課題を解決するために、文章や図から取り出した情報を比較・関連付けて読み取ることができる。	61.3	68.9
	6(3)		67.1	66.5
	比較・関連付けて読み取る力 平均		64.2	67.7
意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	6(4)	読み取った情報を基に、理解・解釈・推論し、課題を解決することができる。	62.4	57.9
	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力 平均		62.4	57.9

2. 結果に対する課題と改善策

〈カテゴリー内容(観点)別の結果の課題と改善策〉

①「国語への関心・意欲・態度」では、書くことへの意欲が都平均88.5%に対して86.6%とやや下回った。この設問(7(3))では、意欲そのものよりも書くことへの苦手意識を持つ生徒が抑制的な回答をしている傾向が見られた。抑制的な回答が多くなった原因として、直前の「書く能力」の設問7(2)の影響が考えられる。このカテゴリーでは全体で都平均78.0%を79.3%と上回っているものの、7(2)のみが都平均64.3%に対して61.0%と4ポイント以上も下回ってしまった。生徒自身にも自らの回答に自信が持てず、続く設問7(3)での抑制的な回答につながったと思われる。今後はせっかくの意欲を生かせるような働きかけ・取り組みを積み上げていく。

②「話す・聞く能力」では、カテゴリーとしては都平均68.1%を69.7%と上回ったものの、設問1(2)「話を聞き必要に応じて適切な質問をすることができる」のみが都平均71.7%に対して68.9%と3ポイント近く下回った。日常生活でも、話からの理解を深めようとする意欲に欠ける姿勢があり、当然、質問を重ねようとする意欲が不足している。授業の中だけではなく、日常的に話を自らの成長につなげるきっかけとする姿勢を持たせるよう、質問を促すような授業を模索していく。

③「言語についての知識・理解・技能」では、入学以来特に力を入れて指導してきたカテゴリーなので、全体として都平均70.1%に対して76.2%と大きく上回ることができた。個々の設問では、10%以上都平均を上回るものが3問あった。平均を下回った2問を凌駕できる結果と評することができるので、これまでの取り組みをいっそう深化させていく。

④「比較・関連付けて読み取る力」では、「課題を解決するために、文章や図から取り出した情報を比較・関連付けて読み取ることができる」を問う2問で設問6(2)が都平均61.3%に対して68.9%と大きく上回ったものの、同6(3)では都平均67.1%に対して66.5%とやや下回った。読み取る能力そのものは、カテゴリー「読む能力」からも明確なように都平均70.6%に対して73.5%を収めているので、これまでの学習を反復・深化させていくことで十分に補填できるものと思われる。

⑤「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」では、最も大きな課題が見えたと言える。唯一問である設問6(4)の平均が都62.4%に対して57.9%しか正答できなかった。誤答の多くから類推されることは、「無形文化遺産」の一語をキーワードと読み誤ったという点である。選択肢全てを比較・検討する以前に、この誤ったキーワードに引き摺られた誤答が最も多かった。筆者・話者の意図を意識しながら読んだり聞いたりする習慣の定着が不十分と思われる。それを指導側が意識した授業展開をすることで、こちらの意図・背景・理由を自ら考えさせる習慣を定着していきたい。